

財務・非財務ハイライト

■ 財務(連結)

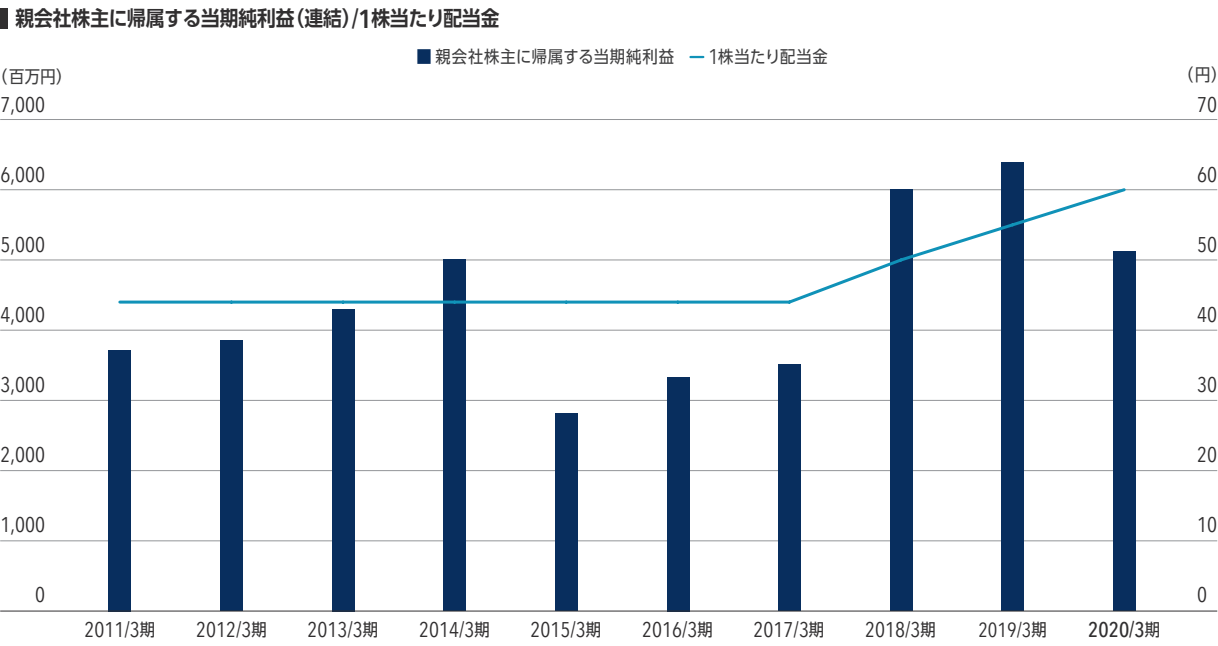
(単位:百万円)

決算期	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3
売上高	202,637	215,718	231,432	204,131	220,716
営業利益	4,870	6,024	12,674	8,929	8,292
経常利益	6,031	6,537	13,455	8,900	9,092
親会社株主に帰属する当期純利益	3,334	3,517	6,006	6,391	5,117
純資産	101,026	108,821	110,989	105,999	105,248
総資産	828,943	860,482	906,495	895,683	997,510
営業資産残高	749,380	767,917	821,954	826,834	898,270
1株当たり純資産額(円)	3,529.64	3,675.84	3,927.22	4,131.64	4,306.21
1株当たり当期純利益(円)	154.85	163.35	278.93	296.81	237.66
配当性向(%)	28.4	26.9	17.9	18.5	25.2
自己資本比率(%)	9.2	9.2	9.3	9.9	9.3
株価収益率(倍)	10.2	10.5	7.4	5.7	7.7
自己資本当期純利益率(%)	4.4	4.5	7.3	7.4	5.6
総資産経常利益率(%)	0.7	0.8	1.5	1.0	1.0

■ 非財務(個別)

決算期	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3
CO ₂ 排出量(t-CO ₂) ^{※1※2}	561	389	379	371	366
エネルギー使用量(原油換算kl) ^{※1※2}	269	167	163	158	157
女性管理職数(人) ^{※3}	5	7	4	5(19)	7(22)
管理職候補者層に占める女性労働者の割合(%)	10.0	10.6	14.9	18.5	10.0
育児休業復職率(%)	100	100	100	100	100
平均残業時間/月	27.0	25.5	22.9	21.1	22.1
有給休暇取得率(%)	61.1	63.9	64.7	66.6	68.7
コンプライアンス研修参加率(%) ^{※1}	100	100	100	100	100
情報セキュリティ研修参加率(%) ^{※1}	100	100	100	100	100

※1 連結ベースの実績。 ※2 第三者検証実施に伴い、数値を精緻化しています。 ※3 ()は連結ベースの実績



着実な取り組みで
中期計画の利益目標を
大幅に達成

執行役員
渡辺 登

2020年3月期の業績を振り返って

国内経済は、2020年1月下旬以降全世界に感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により景況感は急激に悪化し、それまで続いていた緩やかな景気回復が一転しました。

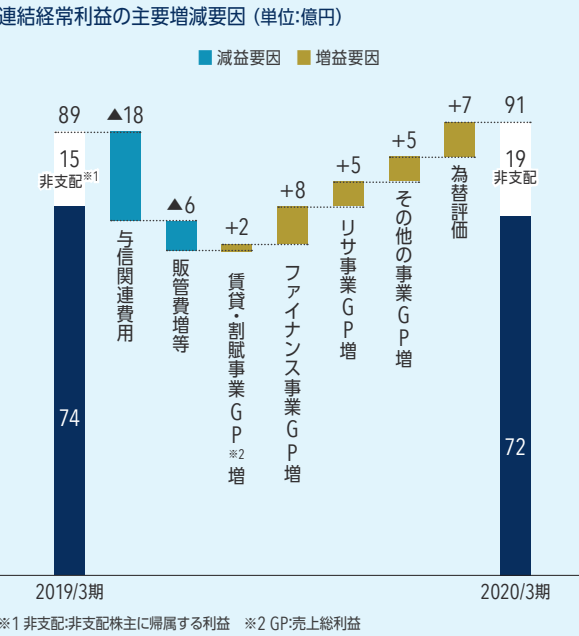
日本のリース業界全体における2020年3月期のリース取扱高は、前期比6.4%増加となりました。Windows10への入れ替え需要や人手不足による無人POS機器の導入需要、また働き方改革に対応するテレワーク需要の増加等により、情報通信機器が前期比大幅な増加となったことが

主要要因です。企業の倒産状況は、概ね安定的な状況が続いていましたが、期末にかけ新型コロナウイルス感染拡大の影響による変化が現れました。このような中、当期の業績は、売上高、経常利益は前期比増、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比減となりました。

売上高は、賃貸・割賦事業の営業資産の積み上げやその他の事業の大型案件の売却に加え、リサ事業の増収から前期比8.1%増の2,207億円を計上しました。営業利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、与信関連費用を計上したことにより減益となりましたが、経常利益は、

連結業績概要(単位:億円)

	2019/3期	2020/3期	前期比
売上高	2,041	2,207	+8.1%
営業利益	89	83	▲7.1%
経常利益	89	91	+2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	64	51	▲19.9%
1株当たり当期純利益	296円81銭	237円66銭	—



全事業セグメントの売上総利益が前期比伸長したことや為替評価の改善により前期比2.2%増の91億円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等の増加により前期比19.9%減の51億円となりました。

セグメント別の状況

賃貸・割賦事業は、Windows10更新需要等で情報通信機器を中心に伸長したことに加え各種営業施策も奏功し、売上高、売上総利益は前期を上回りました。一方、与信関連費用を計上したことから営業利益は減益となりました。営業状況を示す契約実行高は、官公庁・自治体で大型案件を複数獲得したことや民需でベンダーファイナンスやICTレンタル等の強化施策が奏功し、前期比29.9%増加となりました。

ファイナンス事業は、金利収入や配当収入を中心に堅調に推移し、売上高、売上総利益が前期を上回ったものの、与信関連費用の計上により営業利益は減益となりました。契約実行高は、個別ファクタリングや企業融資が増加し、前期比4.3%増加を確保しています。

リサ事業は、ファンドにおける売却収入及び配当収入が伸長し、売上高、売上総利益、営業利益とも前期比で増加しました。その他の事業は、大型の売却売上があったことから、売上高、売上総利益は前期を上回ったものの、新

事業の費用等が先行していることから営業損失を計上しています。

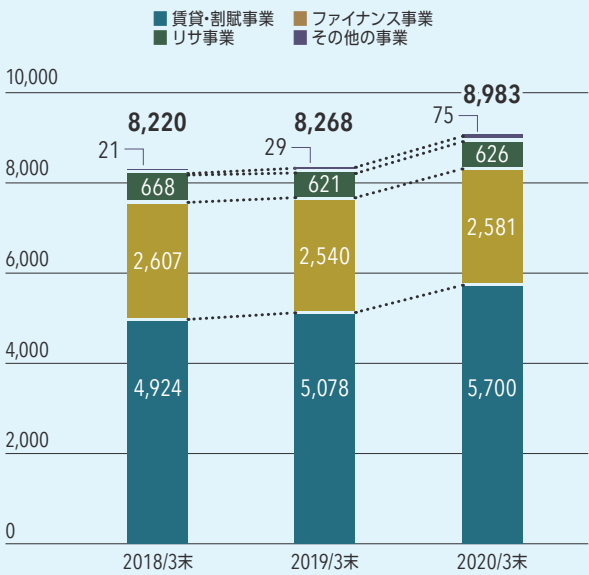
契約実行高 (単位:億円)

	2019/3期	2020/3期	前期比
賃貸・割賦事業	1,836	2,385	+29.9%
ファイナンス事業	4,665	4,865	+4.3%
その他の事業	58	109	+87.0%
計	6,559	7,358	+12.2%

営業資産残高の状況

営業資産残高は、各セグメントで営業資産残高が伸長し前期末比715億円増加の8,983億円となりました。主力の賃貸・割賦事業では、官公庁向けが堅調に推移した他、ICTレンタル等の強化策が奏功し、営業資産残高は前期末比622億円の大幅増加となりました。またファイナンス事業では外貨建てを含む企業融資が伸長しました。リサ事業ではファンドにおける有価証券の売却が進んだ一方、販売用不動産の取得により前期末比増加となりました。

連結営業資産残高の状況 (単位:億円)



資金調達の状況

日銀のマイナス金利政策を背景に、資金調達環境は低位安定の状態が続いています。新型コロナウイルスの影響により、コマーシャル・ペーパー発行市場が一時的に不安定となりましたが、足元では、市場環境は安定的に推移しています。

当期の有利子負債残高は、営業資産残高の増加に伴い前期比999億円増加の8,413億円となりました。戦略的に低コストのコマーシャル・ペーパーによる調達を増やしたことから、資金原価率は前期比0.06パーセンテージポイント減の0.60%となりました。また直接調達比率は前期比5.7パーセンテージポイント増の42.2%となりました。なお、資本の財源及び資金の流動性に問題はなく、キャッシュ・フローについても正常です。

当社は、株式会社格付投資情報センター（R&I）及び株式会社日本格付研究所（JCR）の2社より企業格付を取得し、いずれもA-の格付が付与されています。R&Iからは主力の賃貸・割賦事業において収益力が改善されてきたことやリサ事業が安定的に収益貢献していることを評価され、2020年10月、「BBB+」から「A-」に格上げとなりました。

2021年3月期の見通し

当社グループは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を鑑み、入手可能な情報や予測に基づき、2020年7月に、

2021年3月期の通期の連結業績予想並びに「中期計画2020」を公表しました。

「中期計画2020」の初年度に当たる2021年3月期は、売上高2,200億円（前期比0.3%減）、営業利益65億円（同21.6%減）、経常利益65億円（同28.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益40億円（同21.8%減）を計画しています。この計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等によるファンドのイグジット収益の減少や与信コストの計上等を織り込んだものです。中期計画2020の最終年度である2023年3月期においては営業利益110億円、経常利益120億円、親会社株主に帰属する当期純利益75億円を計画しています。

→ 中期計画2020についてはP09トップメッセージ、及びP13中期計画2020をご覧ください。

利益還元について

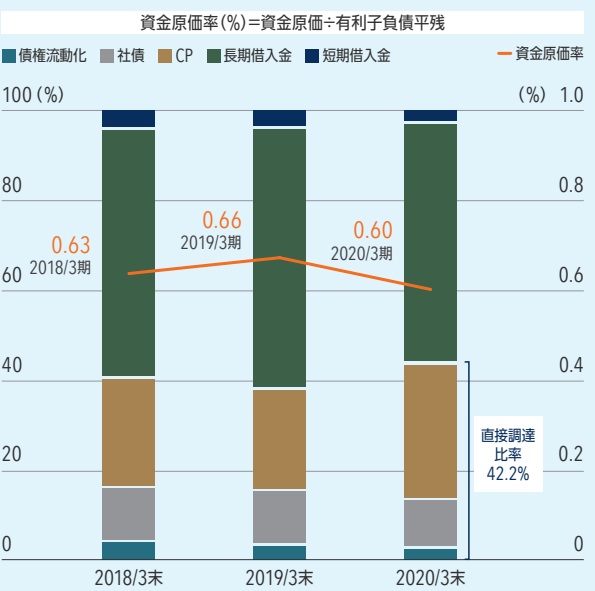
当社は、事業の見通しや配当性向水準等も勘案し、安定配当を維持することを株主還元の基本方針としています。2020年3月期の期末配当金は1株当たり30円とし、年間60円としました。また、新型コロナウイルスの影響を見込んでいる2021年3月期においても、年間60円を計画し安定配当を維持してまいります。

連結事業別収益 (単位:億円)

		2019/3期	2020/3期	前期比
賃貸・割賦事業	売上高	1,668	1,749	+4.8%
	売上総利益	108	110	+2.3%
	営業利益	41	28	▲30.5%
ファイナンス事業	売上高	66	73	+9.7%
	売上総利益	49	57	+16.9%
	営業利益	33	31	▲6.5%
リサ事業	売上高	141	162	+15.1%
	売上総利益	82	87	+5.7%
	営業利益	36	40	+11.3%
その他の事業	売上高	166	224	+34.8%
	売上総利益	17	22	+26.2%
	営業利益	▲4	▲1	-
計	売上高	2,041	2,207	+8.1%
	売上総利益	256	276	+7.8%
	営業利益	89	83	▲7.1%

※ 短信セグメント情報のうち、「調整額」を除いて表示。

連結有利子負債構成比(左軸)・資金原価率(右軸)



当期実績と来期予想 (単位:億円)

	2020/3期 実績	2021/3期 予想
売上高	2,207	2,200
営業利益	83	65
経常利益	91	65
親会社株主に帰属する当期純利益	51	40
1株当たり当期純利益(円)	237円66銭	185円76銭
配当金(円)	60円00銭	60円00銭

※ 予想は2020年7月30日現在。